

広報

なんせい

第31号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部
〒891-7621
鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337
Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

単収向上による生産量の
回復を目指して



徳之島さとうきび
生産対策本部長
大久保 明

新年明けましておめで
とございます。

皆様におかれましては、
新型コロナウイルス感染症
の影響により自粛生活
を余儀なくされている中
ではあります。健やかに
新年をお迎えになられた
こととお慶び申し上げま
す。

さて、今年度産は台風等
の気象災害もなく全般的
に気象に恵まれ順調な生
育が予想されており、品
質・生産量ともに高水準
にあるものと期待してお
ります。

徳之島さとうきび生産
対策本部ではさとうきび
の収穫面積の確保や生産
量の増産に繋げるため、生

産振興に関わる課題や対
応策を集約するとともに、
毎月の担当者会並びに運
営企画委員会において振
興方策を継続的に協議施
策しているところです。さ
らに、スクープやタイヤ・
ビレットプランターなど
の省力化機械の導入促進、
深刻な生産者の高齢化や
担い手不足等により年々
増加する受託作業及び受
託組織の強化、難防除雑草
の管理対策や近年ますま
す拡大傾向にあるイノシ
シ被害の防止対策など、将
来にわたりさとうきびが
安定して生産されるよう
取り組んでまいります。

その中でも、昨年6月に
は「徳之島さとうきび農作
業受委託調整センター」を
設立し、受委託業務の効率
化を図り、適期作業の実現
による単収向上を図ると
同時に、さとうきび生産に
関する各種「データの集積・
分析による効果的なさと
うきび生産振興計画等の
立案に向けて取り組んで
おります。

農家の皆様におかれま

しても、受委託調整センタ
ーを最大限に活用した適
期植付・適期管理作業の
推進とともに、収穫時期の
労力競合の軽減を図ると
ともに高単収が見込まれ
生産性の高い夏植面積の
拡大に努めていただきます
すようお願いいたします。

おわりに、一日も早い新
型コロナウイルス感染症
の終息と、本年が皆様にと
つて幸多き年となること、
徳之島のさとうきび産業
のさらなる発展をご祈念
申し上げます。挨拶とさせ
ていただきます。

今製糖期は、全国的な新
型コロナウイルスの感染
症の拡大を受けて、全て
の事業所において毎日の
検温やマスク着用及び手
指の消毒等を徹底するな
ど、万全の予防策をとり操
業に臨んでいます。

このような状況下です
ので、今製糖期の工場見学
は原則としてお断りさせ
ていただいております。
皆様のご理解・ご協力
をお願い致します。

工場見学について

今期の製糖計画

キビ処理見込量	17万5,236ト	
製糖開始日	令和2年12月15日(火)	
年内搬入終了日	令和2年12月27日(日)	
年明け搬入開始日	令和3年1月6日(水)	
工場 休止日	年末年始	令和2年12月30日(水) ～令和3年1月5日(火)
	春植推進日 (予定)	①令和3年2月1日(月) ～2月3日(水) ②令和3年3月3日(水) ～3月9日(火)
キビ搬入終了予定	令和3年3月28日(日)	

肥え地と痩せ地

私たちが土壌分析を依頼すると、その診断書にpHだとかCECだとかよくわからない分析値がいくつか表示されていますね。

そして、「たい肥を入れましょう!」さらに毎年2t/10a必要です!」といった結論になっています。

でも実際、株出にたい肥を入れるのは技術的に難しく、新植時に自費で入れるにも結構なコストが掛かりますよね。

では、そもそも、肥え地だからよく育つとか痩せ地だからだめだとか、私たちは作物の出来で畑の優劣を評価しますが、本当のところ土と作物の間にはどんな関係があるのでしょうか?

作物との関係

「彼を知り己を知れば百戦危うからず」ということで土の正体を少し掘り下げてみましょう。

まずは土とは、作物が必

要とする栄養分を蓄えておく器であるということ、それを徐々に作物が食べられる形態に分解して与えてくれるということ、ここが重要なところなんです。

作物が必要とする養分にはいろいろありますが、そのほぼ大部分を窒素が占めておりこの動きを追うと作物と土の因果関係が見えてきます。

土に腕がある?

まずは、土、特にその中の粘土はケイ素とアルミニウムの化合物でできていますが、残念なことに徳之島の土の場合その結晶の向き方は作物にはあまり都合のよくない結晶形になっています。

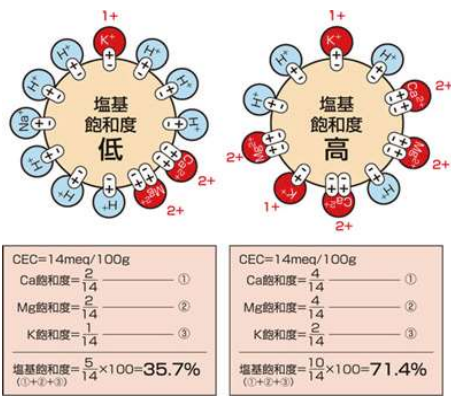
というのは、粘土の粒子は周りの養分を捕まえておく腕(枝)を持つ構造となっています、そしてこの腕が多いほど養分を多く蓄えることができますということになります、残念ながら徳之島はこの腕が少ない構造の土が多いのです。

さらに、この数少ない腕が水素(水)などの電子で塞がれていて養分を蓄える能力が低い構造になっている場合が多いのです。

土壌分析などでは、土の粒子にある腕の数をCEC、腕の総数と実際に使うことができる腕との比率を塩基飽和度という指標で表します。

痩せ地といわれる土は元々の腕の数が少ないうえにさらに使える比率も少ないという残念な土壌のことで、それが痩せている所以です。

そして、そんな土壌の診断を行ったときに、「たい肥を・・・」という診断書が出てくるのです。



たい肥の構造

それでは、そんな土壌の改良に必要とされるたい肥の正体とはどんなものなのでしょうか。

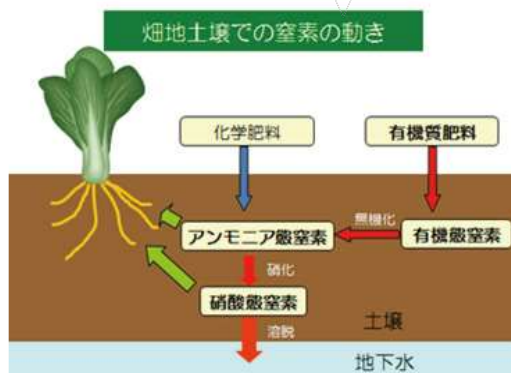
牛糞や鶏糞などのたい肥、その他ハカマなどの動物性の残渣の大半は炭素(有機)とアンモニア化した窒素の塊でできています。

この状態は一般的に有機(炭素)態窒素と呼ばれ、この形態では作物には吸収できないのですが、これらを土壌の細菌が餌として食べることで徐々に分解が促され無機態(アンモニア性)窒素という植物が体内に吸収できる状態になります。

ここで重要なのは、たい肥は土の中で長い間その状態を保ちながら少しずつ作物が吸収できる形に分解して作物に養分を供給し続けるという特性を持っていることです。

ところで、いくらたい肥が良いとはいっても、その投入量が十分でなければ効果も限られますよね。

10aの畑の作土層を重量にすると500tぐらいにはなるでしょうか、でもそこに投入するたい肥はせいぜい2~3t、さらに、徳之島のような亜熱帯地域ではたい肥の分解速度も速いので、毎年投入しないとすくなくなくなってしまいうというのも実に頭の痛い話です。



化学肥料の構造

そこで頭のいい人間はこのメカニズムを知って作物が吸収できる窒素などの成分を化学的に製造するようになりました。

それが、私たちが使って

いる化学肥料で、これによ
りたい肥と全く同じ成分を
効率よく作物に届けること
ができるようになったので
す。

ところが、化学肥料には
たい肥に大きく及ばないと
ころがあります。それが先
に述べた土壌のCECと塩
基飽和度に繋がってくるの
です。

化学肥料はすでに作物が
吸収できる形態に加工され
ていますが、問題はい肥
ほど自分で長期的に土の中
に留まりつつ少しずつ成分
を吐き出すという機能を持
ち合わせていないことで
す。

もちろん、ロングタイプ
の肥料など持続性を工夫さ
れている場合もあります
が、基本的にはその土に肥
料の成分を保存する器つま
り土の粒子の腕にその保存
機能を委ねるのです。

土がその成分を貯めてお
けるのか、それともすぐに
流れてなくなってしまうの
か、それが、肥え地と痩せ地
の決定的な違いになりま
す。

同じ量の肥料をあげて
も、一方は土に貯めながら
長期間利用するがもう一方
は、使い切る前に地下に流
亡してなくなってしまうの
です。

人間と同じく、食べ放題
の料理を前日食べても翌日
以降に保存できてなければ
後は飢えるだけということ
になるのです。



上手な使い方

土を作るのは労力面でも
コスト面でも大変難しいこ
とですが、ここまでの理論
を踏まえると、化学肥料と
たい肥で作物が吸収する成
分形態は同じなので、後は
化学肥料を使うときは土が
保存できるだけの肥料を少
しずつ数回に分けて供給し
て作物を飢えさせなければ
肥え地と痩せ地の生育条件
の差を近づけることができ
るということが理論的に成
り立つわけです。

つまり、生育のいいさと
うきびを作る一つの方法と
してあまり生育のよくない
畑ほど肥料をまとめて与え

るのではなく、さとうきび
の様子を見ながら、コマ目
に肥料をあげて雑草を防除
し、常にそのさとうきびが
その時の能力をいっぱい発
揮できる環境を整えてあげ
るようにすることが重要で
はないでしょうか。

お猪口に一升瓶で一気
に注いでも飲めるのはお猪口
の一杯、後は無駄コストを
垂れ流していくだけで、そ
んな生育は思わしくなく費
用が嵩むような栽培は避け
たいものです。今回は、土と
肥料の関係を植物の生育の
基本である「窒素の循環シ
ステム」と絡めてお話しま
した。

作物が健全に生育するに
はこの「窒素の循環システ
ム」、これが根本にあり、こ
の理論を踏まえない生育過
程は基本的に考えられませ
ん。

少し余談になりますが、
巷には、「これを入れるだけ
で素晴らしい生育が良くな
る」といった謳い文句の資



資材の選び方

材があふれています。

そういった資材を否定す
る訳ではありませんが、活
用するにあたっては、それ
らの資材が植物の生態のど
こにどのように関与し、数
百倍もしくは数千倍に薄め
ても広大な面積に効果があ
るといふ理屈がどこにある
のかなど、その品質と量の
観点からそれ等が作物の窒
素循環の生育理論に沿った
効果検証が成り立つのかを
評価することをお勧めしま
す。

そして、それがこまめに
肥料をやる以上に効果を上
げるものなのかを客観的に
よく検証してみたいかが
でしょうか。

さて、じつは土壌と植物
の生態に関する理論は今回
の話では収まらず奥深いも
のです。

pHであったりカリウム、
リンなどの金属類との関わ
りなどを化学的な見地から
観察するとさらに複雑な広
がりが見えてくるのでそん
な話が次回に展開できれば
と思います。

工場便り

弊社、徳和瀬工場におき
まして、新たにボイラーが
生まれ変わることとなりま
した。

既設ボイラーは平成元年
に設置し、毎年入念な整備
を行い大事に使用してきま
したが、約30年経過したこ
とで水管の更新が必要とな
りました。

今回の更新工事により、
さらに安定した操業が出来
るものと考えております。
今期製糖期は感染症拡大
防止のため工場の見学を中
止させて頂いております
が、再開の折には、ぜひ、工
場見学にいらしてください。



ボイラー(バーナー部分)

新年のご挨拶



代表取締役社長
神崎 俊

新年あけましておめでとうでございます。昨年11月の弊社定時株主総会・取締役会で代表取締役社長に就任した神崎俊と申します。

私は1958年生まれ、四国香川県出身。大学卒業後大洋漁業株式会社(現マルハニチロ株式会社)に入社、その後の塩水港精糖株式会社での勤務を含めて40年近く砂糖の営業畑を歩いてまいりました。原料糖の生産にかかわることは初めてのことでありますので、なにとぞご指導のほどよろしくお願いいたします。

今期、さとうきびは順調に生育しており、3作平均

単収は5.2トン/10a、生産量は177千トンと見込まれています。登熟も昨年並みで進んでおり、量・質ともにまずまずの水準が期待されています。社長就任後、徳之島に2度伺いましたが、島内の至る所にさとうきび畑が広がっているのを目の当たりにし、さとうきびが島の基幹作物であり、生産振興の重要性を改めて実感しました。

近年、農家の高齢化や労働力不足が加速しており、新植面積の拡大に向け、ハーベスターとビレットプランターをセットにした採苗と植付けの機械化体系を確立し、作業負担の軽減を図るとともに、地域と連携して荒廃農地の開墾も進めていきたいと考えています。徳之島さとうきび農作業受委託調整センター(令和2年6月発足)の稼働領域も順次拡大しており、適期植付け・管理作業を実践し、農家の所得アップを図っていきます。

弊社はこれからも行政

新役員体制のご案内

弊社第55回定時株主総会並びに取締役会におきまして下記のとおり役員が選任され、それぞれ就任いたしました。

つきましては、今後とも社業発展のため一層精励いたす所存でございますので、何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長	神崎 俊
常務取締役	新美 薫
取締役	高垣 建次
取締役	松山 洋
取締役(非常勤)	武原 清哲
取締役(非常勤)	伊藤 昭幸
監査役(非常勤)	平益 三直
監査役(非常勤)	田浦 田

なお、代表取締役社長 田村順一は退任のうえ相談役、取締役 池崎左地夫は退任のうえ顧問に就任しました。在任中、賜りましたご厚情に厚く御礼申し上げます。

を始めとする関係機関とともに助成事業を行い、収穫面積の回復と単収向上対策を推進して、さとうきび産業の発展に継続して取り組み、徳之島の経済・社会の維持発展に微力ながら尽力していく所存です。

末尾となりましたが、新型コロナウイルス感染症が早期に終息し、今年1年皆様が健やかに過ごされ、

ご多幸の年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

このたびの弊社第55回定時株主総会において取締役を選任され、工場部門を担当させていただくこととなりました。

新役員紹介



取締役製造統括部長
武原 清隆

サトウキビ産業を取り巻く環境が厳しさを増す折から、その責務の重大さを痛感しております。

微力ではございますが、新たな決意をもって、一杯、職務に邁進してまいります。

弊社は半世紀以上にわたって徳之島の皆様とともに歩んでまいりました企業であり、今後も皆様のご指導なくしては明るい将来はありません。

社員一同、徳之島のサトウキビ産業をより良くしていくために何が求められるのか、何ができるのかをしっかりと考え、全力で取り組んでまいります。

何卒、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。